

に出る。

瓦策驛 平安北道龍川郡東上面
京城から四六〇軒六 安東から三八軒七

▽旅 館 石山旅館

驛は給水驛となつてゐるが附近は人家百數十戸に過ぎない寒村で見るべきものもない。

枇嶋驛 平安北道龍川郡揚光面
京城から四六八軒四 安東から三〇軒九

▽乗合自動車 揚市行

▽旅 館 都羅旅館・枇嶋旅館・開城旅館

昔から義州街道の要地として知られた處で地方的の物資集散地をなし杭木・豚等を産出してゐる。

枇嶋驛を出て三橋川の鐵橋を渡れば間もなく白馬驛

に適するが故に安東新義州方面から來遊するものが多い。

【白馬水泳場】 三橋川鐵橋の上下各一箇所の川邊に脱衣場・休憩所・賣店等を設け水泳場としての設備を施したもので、夏期は海水浴場に惠まれない安東・新義州市民の來り遊ぶ者が多い。

石下驛 平安北道義州郡古津面
京城から四八八軒九 安東から一〇軒四

山間の一小部落で見るべきものもない。

石下驛を出て切取を出れば車窓の眺は急に明るく開けて鴨綠江は廣い平野を悠々と流れ、新義州安東の兩市街も指呼の間にある。

にづく。

白馬驛 平安北道義州郡威遠面
京城から四七七軒七 安東から二一軒六

▽旅 館 白馬館・藤屋旅館

三橋川北岸の一小部落であつて冬季三橋川から採取する天然氷は鮮内に於ても最も良質とせられ一、五〇〇噸を各地に送出してゐる。

【白馬城址】 驛の北方六軒白馬山嶺中腹稍々平地をなす處にある。内城と外城とより成り内城は高麗時代

外城は李朝時代何れも外敵の侵入に備へん爲築かれたるものであつて四方に城門を設けてある。城の西北端は北將臺と稱する海拔四〇九米の高地で三橋川

流域の沃野を隔て、遠く多獅島附近の碧海や安東・新義州の市街を遙かに望む眺望絶佳の地である。又城内は春は櫻花、秋は紅葉の名所となり一日の散策

新義州驛 平安北道新義州府
京城から四九六軒七 安東から二軒六

▽出店、立賣 (辨當なし)

▽乗 換 新義州荷扱所線 一軒八

▽乗合自動車 江界行・龍巖浦行

▽名 物 白魚後鱈・白魚琴干

▽一日平均

乗車人員 五二六人 降車人員 五六二人
發送貨物噸數 一〇一噸 到着貨物噸數 一〇五噸
主要發送貨物 木材・穀類・大豆類・紙・織物
主要到着貨物 雜穀・木材・石油・鹽・綿織物・石粉

驛舎は煉瓦三階建てで二・三階は鐵道局直營の新義州鐵道會館となつてゐる。

【新義州府】 新義州は朝鮮の北門、國境第一の前線である。こゝはもと江瀕の一砂洲に過ぎなかつたが鐵道架橋の地點となるに及んで爾來長足の進歩を爲し、今日の如き大市街を形成するに至つたのであ

る。殊に架橋の竣工以來、一水を隔て、安東との經濟關係倍々密接を加へ殆んど同一都市たるやの觀を呈し安東と共に明治四十三年以來開港地として、米穀・木材・牛皮・生牛等を輸移出し、石灰・木材・粟等を輸入してゐる。現在は平安北道廳の所在地として政治、經濟共に樞要な位置を占め、市内は井然たる廣き街路、安壯なる建築物等近代都市の美觀を備へ、營林署の製材工場・鴨江木材・王子製紙等の大工場は盛に活動してゐる。旅客が新義州に入つて特に注意を惹くことは支那労働者が多く其勞銀の低廉なこと、鴨綠江を介して安東と微妙なる交渉を有してゐることであらう。

尙今回の滿蒙に於ける時局を一轉機として日本航空輸送會社は大連・東京間定期航空路の着陸地として當地に飛行場を設けてゐる。

年までは中央の一桁が開閉され、視察者を喜ばせてゐたが本年四月から種々の關係上永久に開閉を中止せられたので今後は俗語に唱はるゝ如く十字に開くことは見られなくなり、國境視察者に一抹の淋しさを感ぜさせてゐる。

【朝鮮萬里長城址】 今から約九百餘年前高麗朝の第九代德宗王の時に北方滿洲族の南侵を防禦すべく新義州の約八軒上流古城面烟臺洞を起點とし威鏡南道定平郡の海濱に達する國境線に沿ひ築かれた甃々數百軒に及ぶ雄大なるもので今日に至るも其跡を残してゐる。

【義州】 義州はもと龍巖又は和義とも云ひ、古來邊境の重鎮として警戒嚴重を極め又幾度か征戰攻伐の巷となつた歴史を有してゐる。地勢は東北に丘陵を負ひ、西北は鴨綠江に臨み九連城・沙河鎮と漂渺の間に相對し頗る險要の地を占めてゐる。邑の北方郊

外高地に建てる統軍亭は、展望廣闊で虎山・九連城・安東を一眸に望み、日清・日露兩役に於ける我砲兵陣地として世に知られてゐる。

▽交 通 新義州―義州間 二〇軒 乗合自動車 一人八五錢

【龍岩浦】 龍岩浦は新義州の西南下流約三〇軒、鴨綠江口に在る名邑であつて支那の大東溝と斜に相對した港である。此地はもと露國の圖南經營の一點地となつてから蘆荻の叢生地も貿易港と化し一時は相當殷盛を呈してゐたが、港として干潮時に水が淺く、巨船の出入に不便な爲に近來不振となり、寧ろ漁港として水産物の集散により僅に生命を保つてゐる状態である。人口約一萬一千餘、郡廳・稅關支署・測候所等がある。

【多獅島】 昭和製鋼所設置問題で一時世に知られた多獅島は新義州より南陸路三七軒水路二六連、鴨綠江口にある西鮮國境唯一の不凍港であつて優に三千噸

▽戸口 内地人 鮮人 其他 計
戶數 一、七六四 七、七二〇 八九六 一〇、三八〇
人口 七、六九五 三五、五四〇 五、四四二 四八、六七七

▽官公署 平安北道廳・新義州府廳・營林署・地方法院・稅關・守備隊・中學校・商業學校・商工會議所・中華民國領事館

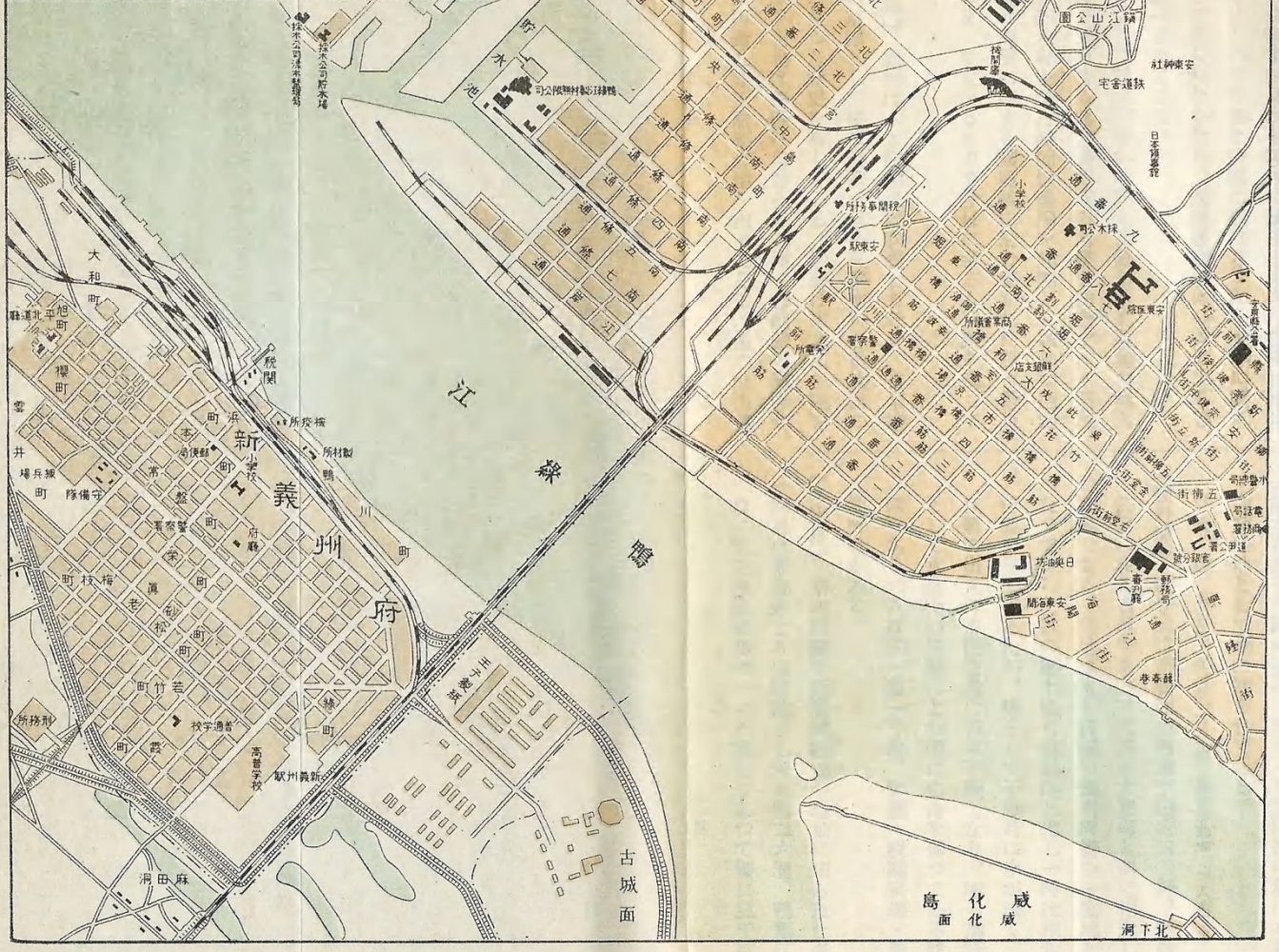
▽其 他 朝鮮紳士會社・王子製紙分工場・鴨綠江木材會社・鴨江日報社・朝鮮殖産銀行支店等

▽旅 館 新義州鐵道會館・中津旅館・終羅旅館・岩田旅館

【鴨綠江と大鐵橋】 國境を劃する鴨綠江は遠く白頭山に源を發し、滿洲より渾河を容れて益々大を成し七九〇軒の長きを奔下し滔々として黃海に入つてゐる。新義州から對岸安東へ架した大鐵橋は東洋一の規模を有し、長さ九四四米餘、二百三十九萬圓の工事費と二箇年の日子を費して成つたものである。

橋桁が十二連、橋の中央は鐵道線路、鐵路の兩側二・四米が歩道となつて居る。實にこの鐵橋こそは滿蒙・支那・歐洲大陸への國際通路である。昭和八

新義州府及安東市街圖



京義線

乃至六千噸級の汽船十隻を同時に繋留し得べき良港である。此地は日露戦役に際し鴨綠江軍の上陸地點となつてから漸く知られ、現在では總督府が約五十萬圓の工費を投じて、昭和五年竣工した小多獅島とを連絡する五六六米の通路、附近を埋築した八一〇〇平方メートルの荷揚場及倉庫敷地並に一二〇米の船舶繋留場突堤の施設のみで規模あまりに狭小に失し今日では殆ど用を爲してゐない状態である。

新義州荷扱所驛

新義州驛の貨物取扱所として設けられた驛であつて貨物は全部當所に發着してゐるが安東新義州間の交通頻繁なるに鑑み、安東との間に汽動車を一日數回運轉し旅客の便も圖つてゐる。

ればかりでなくこれが白魚を原料としたこととその香ばしい匂によつて説明され、ばそれと肯定される程度のものであつて特産的の異彩は譽干に比べて數段落ちることは否み得ない。只硬度は全く煎餅級であるから齒の弱い人には確に譽干以上の價値があらう。

新義州驛を出ればすぐ鴨綠江鐵橋にかゝる。渡れば滿洲の地で安東市街が車窓に映る。僅か鐵橋一つを隔てた當地では風俗習慣等何れも異つて早くも滿洲情緒が味へる。

安東驛

出店、立賣（弁当）乗降場に賣店及食堂がある。京義線の終端、安奉線の起點で、列車は通關其他の關係で三十分乃至五十分停車する。

京義線

白魚譽干と筏燒

鴨綠江に因んだ特産
 ……白魚譽干；筏燒…
 結氷の荒涼たる水上風景が二月の末に終りを告げると上流から氷塊が押し寄せて来る。やがて流水が終り河面は次第になごやかさを恢復し、櫻が咲く頃には早くも初筏が下つて来る。そして鴨綠江では譽干、筏燒の原料たる白魚の漁撈が眞盛りとなつて来る。
 白魚譽干、白魚筏燒、今でこそ新義州に縁を持つ程のものには誰も知る程の名産であるが、僅々二箇月の漁撈期間に於て一〇〇噸に近い水揚をなし製品二〇噸を生産し、この賣上金額約十萬圓を突破し乾物仲間には於ては全國的に名聲噴々たるものがあり爲に供給不足を訴ふる程の盛況である。

安東驛に於ける税關検査

滿鮮連絡旅客の手荷物は安東驛で滿州・朝鮮兩税關の検査がある。税關検査は左の順序で行はれるから旅客は必ず立會する事を要し若し立會はすして通關未済となつた荷物は之を留置せらるゝ場合もあるから注意を要する。

【検査の順序】安東通過の旅客に對し
 携帶手荷物 到着するとすぐ列車内で検査がある。
 旅客は豫め荷物を開いて順番を待つこと。
 託送手荷物 乗降場に取卸してあるから前記車内検査が済んでから必ず立會ふこと。
 【課税に就て】南行は滿洲輸出朝鮮輸入とし、北行は朝鮮輸出滿洲輸入として、所定の税率により課税されるが、大體左記範圍内ものは免税される様である。

煙草 朝鮮及内地に搬入する煙草は自己の吸料として認められる左記の内一種を許されてゐるから検査の際乗車券と共に之を提示して自用許可済の證印を是非受けねばならない。

新義州孟中里間各驛下車客葉卷三本、紙卷十本 刻粉五匁、孟中里以遠行旅客葉卷五十本紙卷百本、刻粉三十匁、何れか一種に限る。

但葉卷二十五本、紙卷五十本とすれば雙方を所持することを許される。

少量の土産物(何れか一種に限る) 砂糖十斤、絹袖一疋、緞子一丈、酒類二本位

寫眞機等携帶旅客の注意 朝鮮方面より滿洲方面に寫眞機・望遠鏡等を携帶し旅行する客は安東で豫め税關官吏から證明書を貰つておくると歸路免税取扱の便宜がある。證明書は安東驛ホームの税關官吏詰所で申告すれば容易に發行して呉れる。

▽人口 新市街 内地人 一一、五五二人 朝鮮人 一一、二七〇六人 舊市街 一四四四人

支那人 三九、六六六人 外人 一四一人 計 六二、三〇八人 九六、五五四人

▽旅館 安東ホテル(和洋兩式)・富久壽美旅館・元寶館・日の出旅館・滿洲旅館・安東館・ことぶき旅館・大和旅館・秀清館・紅屋旅館・櫻屋旅館

【鎮江山】鎮江山の中腹から麓にかけて滿鐵が施設したる眺望雄大な公園で脚下に安東全市を俯瞰し鴨綠江を隔て、新義州とは指呼の間にある。山中樹木多く園内に溪流あり、池水あり、自然の景勝に人工の粹を加へて風致を増したる眞に滿洲屈指の遊園地となつてゐる。

又銃砲火薬類を所持する客は必ず所持許可證を提示し平安北道廳(朝鮮税關に於て取扱ふ)より輸出入の許可を受けねばならぬ。

【安東】安東市街は新舊兩市街に分れ新市街は日露戰役後日本軍政官の經營した處、二千三百餘の内地人家屋を主として純然たる日本街を形成し、市區井然近代都市の文化設備はよく整つてゐる。舊市街は新市街と接續し稍々上流江岸に位置を占め全くの支那町で新市街の二倍程の人口を擁し、富商軒を並べて繁華段賑を極め、内、鮮、滿、支の貿易が盛んに行はれてゐる。滿洲奥地に産する大豆・高粱・山藪・鴨綠江材竝に彼等が必要する綿布・麥粉・石油其他日用雜貨類は安東を唯一の輸出入港とし最近其貿易額も九千八百七十萬兩に達し對外貿易は殆ど新市街の日本人が掌握してゐる。

頭に物を載す

朝鮮の女子は何でも頭の上に載せて運ぶことを心得て居る。中にも瓢を以て汲みたる水を甕に入れ載せ行く姿などは如何にも風趣あるものである。

内地でも八潮・大原の女子が柴や薪や草花などを頭に載せて、京の町を賣り歩くのは誰しも知るところで、又九州・四國・中國の海濱でも、女子が魚類を甕に入れて頭に載せて賣り歩くところもある。朝鮮の女子と全く同じである。



朝鮮旅行案内記

昭和九年九月二十五日 印刷
昭和九年九月三十日 發行

朝鮮總督府鐵道局

不許複製

發行所

朝鮮京城府漢江通十五番地
社団法人 日本旅行協會
日 本 旅 行 協 會

印刷所

朝鮮印刷株式會社

發賣所

各地ジャパン、ツーリスト、ビュロー案内所及著名書店

〔定價金壹圓五拾錢〕